

JPTA



NEWS

2023.12 vol.346



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

国際学会の 手引き 感じる・触れる・学ぶ！



会報誌「JPTA NEWS」へのご意見・ご感想を募集しています。

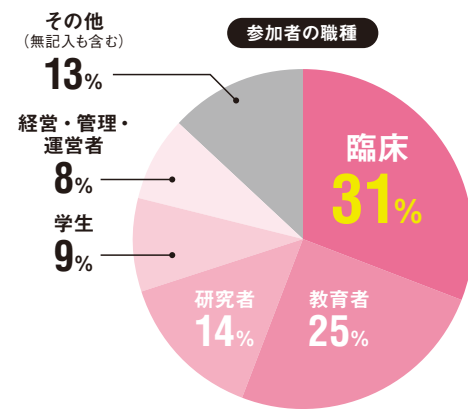
右記のQRコードを読み取り、アンケートフォームからご回答ください。



ISSN 0914-2517

World Physiotherapy Congress 2025 東京開催！

国際学会に参加しよう！



参加理由 Top3

- 1位 最新の知見を学ぶため (69%)
- 2位 ネットワークや協働のため (68%)
- 3位 専門性を高めるため (60%)

出典：World Physiotherapy
(<https://world.physio/sites/default/files/2023-11/WP2023-infographic-report.pdf>)

120の国と地域から
2,000人以上が参加！



2023年6月 ドバイ

World
Physiotherapy
Congress



2025年5月 東京開催！

海外の 学術大会

海外でも理学療法の進歩と科学的知識の交換促進のために、学術大会が数多く開催されています。今回は本会が加盟する国際団体主催のもの、世界理学療法連盟のスペシャリティグループ主催のもの※1から、皆さんが参加できる国際学会※2を紹介します！

※1 世界理学療法連盟に加盟をしている組織の会員が受けられる割引制度などがあります（本会は加盟組織です）。
※2 開催される学術大会の一部を掲載しています。開催情報は変更される場合があります。詳細は各国際学会のホームページ等に掲載される情報をご確認ください。

WCSPT 2024

開催国 ノルウェー
開催日時 2024年6月14日(金)～15日(土)

<https://www.wcspt.org>



スポーツ

IFOMPT 2024

開催国 スイス
開催日時 2024年7月4日(木)～6日(土)

<https://www.ifomptbase12024.org/frontend/index.php>



筋骨格系
徒手

World Physiotherapy Asia Western Pacific region Congress 2024

開催国 インドネシア
開催日時 2024年9月26日(木)～28日(土)

<https://fsioevent.com>

※詳細決定後は、本会ホームページにも掲載します。



アジア
西太平洋
地区

World Physiotherapy Congress 2025

開催国 日本
開催日時 2025年5月29日(木)～31日(土)

<https://world.physio>

※学会専用サイトは2024年2月中旬頃に公開予定です。詳細決定後は、本会ホームページにも掲載します。



世界理学療法
連盟主催の
世界学会

10th IOPTMH 2024 Conference

開催国 コロンビア
開催日時 2024年9月19日(木)～21日(土)

<https://congresoioptmh.godaddy.com/>



メンタル
ヘルス

国際学会 手引き

はじめて国際学会に参加、発表をするにあたり、いつからどのような準備をしたら良いのでしょうか。『はじめての国際学会 手引き』を、国際学会の参加や発表の準備にぜひご活用ください。

※学会によってスケジュールは異なります。参加予定の大会ホームページをご確認ください。

研究着手！

- Check list
- ☐ 研究テーマを検討
 - ☐ 研究計画を立てる
 - ☐ 倫理申請
 - ☐ 研究データの収集

YES
発表をする予定だ

START

学会で
発表をする
予定だ

NO
参加のみ

約1～2年前

事前準備

- Check list
- ☐ 学会を探す
 - ☐ 演題・参加登録の締切を確認

学会の日程上、勤務に影響が出る場合はあらかじめ所属施設に相談しておきましょう！

約1年前

演題登録、発表形式の選択※、抄録の募集開始

※学会によって異なります。

- Check list
- ☐ 抄録の規定を確認
 - ☐ 発表カテゴリーを決定
 - ☐ 英文の作成・修正
 - ☐ 登録は間違いがないよう慎重に！

一般演題（口述またはポスター発表）や指定演題（シンポジウム、ワークショップ等）があります。

約1年～2ヶ月前

参加登録開始

- Check list
- ☐ パスポートの準備（海外で開催の場合）

早期割引が適用されることがあります。早めの確認と参加登録がおすすめです！

演題の採択通知を受け取る

- Check list
- ☐ 航空券やホテルの手配

不採択

事前準備②

- Check list
- ☐ 航空券やホテルの手配

採択

各学会の指定に応じて、スライドやポスターを準備

- Check list
- ☐ 発表の練習
 - ☐ 質疑応答の準備
 - ☐ 発表する日時、会場を確認

学会によってはホテルの情報を掲載しています。治安の悪いエリアに手配しないよう現地情報も確認しましょう。

学会発表当日

- Check list
- ☐ 発表する日時、会場を再度確認
 - ☐ 他のプログラムも楽しむ

Let's
Enjoy!

学会によっては、参加者と交流ができるネットワーキングエリアや展示エリアなどが用意されています。ぜひ活用しましょう！

学会参加当日

- Check list
- ☐ 興味のある演題や展示を確認

今日からできる

感じる 触れる 学ぶ！

国際人材バンク登録

～国際活動への協力者募集中！～

本会の国際活動に協力をしてくださる多様な人材を募集しています。登録すると、国際活動に関する人材募集や国際情報などの配信をメールで受け取ることができます。語学を活かしたい方や英語を話す機会を作りたい方、語学が得意ではないけれども国際活動に興味がある方など、ぜひご登録ください。

配信情報の例

語学ボランティアや国際カンファレンスのスタッフ募集
国際事業課のイベント情報
翻訳等の事業協力者の募集等

<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/workandstudyabroad/#a1>



国際事業課 SNS

～国際情報を配信！～

国内外で理学療法の可能性をさらに知ってもらうために、多様なチャンネルで日本語と英語での情報発信をしています。オンラインイベントや国際学会、インタビューなどの情報を提供していますので、ぜひご活用ください。

フォローやチャンネル登録をお願いいたします

Facebook
JPTA International
<https://www.facebook.com/profile.php?id=100058326251599>



Instagram
@jptainternational
<https://www.instagram.com/jptainternational/>



YouTube
JPTA International Affairs
<https://www.youtube.com/@jptainternationalaffairs4701/videos>



JOPTEP

～海外の理学療法士と繋がる～

JOPTEP (JPTA Online Physical Therapist Exchange Program) は、Web 会議プラットフォームを用いて、本会会員と海外の理学療法士が1対1で交流できるオンラインシステムです。理学療法に限らず、文化や言語などのような理学療法関連以外の話題を通して交流することも可能です。システム管理のため月額 500 円を頂戴いたしますが、最初の1ヶ月は無料となりますので、ぜひお試しください。詳細は、本会ホームページをご覧ください。

月額500円
初月無料！



<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/globalization/#a3>



Global Café

～海外の理学療法士、経験者と語ろう～

Global Café は、参加費無料でキャリア形成のための情報や国際活動に興味のある日本人や海外の理学療法士と情報交換をすることができるオンラインイベントです。ゲストからの話を聞けるだけでなく、トピックをもとに少人数グループでの意見交換も行っています。日本語回と英語回に分けて開催しており、英語学習にもご活用いただけます。カジュアルなイベントですので、お気軽にご参加ください。

本会ホームページから
今後の開催予定を確認できます。
<https://www.japanpt.or.jp/pt/international/globalization/#a4>



研究倫理

忘れないで！

Q.研究倫理とは？

A. 研究活動を行うにあたり、守らなければいけない倫理的な規範です。

研究倫理は、研究参加者の保護はもちろん、所属施設やご自身の不利益を回避するためにも順守する必要があります。したがって、研究に取り組む前に必ず研究倫理について学びましょう。そして、研究を行うにあたり倫理審査の申請を忘れずに行いましょう。

例えば…

- ・研究データや結果の不正は行っていない
- ・参加者のプライバシーを保護しなければならないなど

研究に関する指針
(厚生労働省ホームページ)

厚生労働省 政策について 分野別の政策一覧
他分野の取り組み 研究 事業 研究に関する指針について

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyou/i-kenkyu/index.html>



研究倫理を学びたい方向け
eラーニング (日本学術振興会提供)

日本学術振興会 研究公正 研究倫理教育教材

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/rinri.html>



Q.どこで倫理審査を行うことができるの？

A. ご自身の所属施設に設置されている倫理審査委員会に申請しましょう。病院などの施設でも設置されている場合があるため、まずは所属施設に確認してください。所属施設に倫理審査委員会がない場合、外部からの倫理審査申請を受け付けている機関を探しましょう。

先達に聞く！ 理学療法士の 国際学会



理学療法士が国際学会に参加する意義とは、どのようなものなのでしょうか。

2025年の世界理学療法連盟学会の日本開催を視野に入れて、2023年にドバイ（アラブ首長国連邦）で開催された世界理学療法連盟学会で教育者、研究者、プログラム委員など、さまざまな立場でご活躍されたお三方に、国際学会について語っていただきました。

理学療法士としての国際学会への参加

大工谷：菅原先生と横山先生は、2023年にドバイで開催されたWorld Physiotherapy（世界理学療法連盟；WPT）の学会や卒業後教育で国際学会に携わられていると思います。まず、国際学会とはどのようなものだとお考えでしょうか。

菅原：大学教員になる前は、国際学会は別世界のもののように感じていました。教員になってからは、学術的に活動をしていくうえで国際学会を意識するようになり、さらに、後進が増えてくるにしたがい、指導の中で国際学会への参加を促してきました。当然、国際学会だけではなく国内学会への参加も並行して双方怠らないようにしています。自分達の研究を発表する場をその都度設けることにより、定期的な成長をもたらす起爆剤になっていると思います。

横山：私は、海外への憧れが随分昔からあったと思います。生まれた時から隣の家にアメリカ出身の方が住んでいて、通っていた幼稚園に日米交換教育があったこともあり、海外は凄いなと感じていたところがありました。その後、理学療法士として就職した病院で英文抄読をする機会があり、インターネット等がまだない時代だったので、図書館へ行っていかに短い文献を探すかが、理学療法士として英語を意識した最初の始まりでした。国際学会に興味を持ったきっかけは、1999年に横浜で行われたWorld Confederation for Physical Therapy（世界理学療法連盟 旧称；WCPT）でした。当時は妊娠中の身でしたが会場まで行き、ウィメンズヘルスのシンポジウムに参加してカルチャーショックを受けました。大学院生の時には、アメリカ

心臓病学会に参加させていただき、実際に海外に足を運んだことでさらに興味を持つことができました。私の場合は、国際学会の参加がモチベーションになるなど、好循環になったという経緯があります。

大工谷：私の場合、最初は海外に行きたいという理由で、臨床2年目の時に台湾で開催されたアジア理学療法連盟学会に参加をしました。その当時は、英語を話すことができず、用意した原稿を朗読しに行ったようなものでした。質問にもうまく答えることはできませんでしたが、楽しかった記憶だけがあります。それがきっかけで国際活動に興味を持つようになり、国際学会で発表をするようになりました。お二人は、はじめて国際学会で発表した時のことを覚えていらっしゃいますか。

菅原：はじめての国際学会は、私も1999年



PROFILE
神奈川県立保健福祉大学
保健福祉学部部長兼アドミッションセンター長

菅原 憲一さん
Sugawara Kenichi

理学療法士、博士（学術）。2003年から神奈川県立保健福祉大学に勤務。助教授、教授、理学療法学専攻長、保健福祉学研究科長を経て2023年から現職。学術大会の演題査読委員や学術雑誌の編集委員を任務。



PROFILE
北里大学 医療衛生学部 リハビリテーション学科
理学療法学専攻 講師

横山 美佐子さん
Yokoyama Misako

理学療法士、博士（医学）。2006年から北里大学 医療衛生学部勤務。（一社）日本小児理学療法学会 副理事長。世界理学療法連盟学会2023、2025の congress programme committee メンバー。



PROFILE
公益社団法人日本理学療法士協会 副会長・専務理事・
国際事業担当理事

大工谷 新一さん
Daikuya Shinichi

理学療法士、博士（スポーツ科学）。2023年から現職。世界理学療法連盟アジア西太平洋地区執行委員を歴任。

に横浜で行われたWCPT学会です。広島から教員仲間と参加し、ポスター作成は英語、発表は日本語という日本人専用の演題で発表しました。日本語での発表とはいえ、海外の方が多く来られるということで、当時の勤務先の上司が熱心に発表の練習に付

き合ってくださった記憶があります。ただ、実際に海外の方に話しかけられても、何も答えることができなかったという恥ずかしい結果となりました。それが後に頑張ろうと思ったきっかけでもあります。

横山：私もはじめての学会発表では、原稿

を読みに行ったような感じでした。質問に対してもうまく対応できず、とてももどかしい思いをしましたが、国際学会で口述発表ができたことはとても良い経験でした。

国際学会の今と昔

大工谷：2023年のWPT学会では、菅原先生は学生の方と一緒に参加されたそうですね。

菅原：はい。大学院生や卒業生、私を含めて5演題を発表しました。学生のほうが私よりも英語が上手で、私を引率してくれているような状況でした。

大工谷：それは心強いですね。国際学会に参加したいという学生は多かったですか。

菅原：中東で開催される学会はあまりないの

で、せっかくなら参加をしたいという大学院生は多かったです。私の大学院生の時と比較すると、最近の学生は前に出る積極性があり、度胸がありますね。

大工谷：国際学会での発表経験や実際に現地に行くことは学生さんのモチベーションに繋がり、また次も国際学会に行こうという気持ちになるのではないですか。

菅原：そうですね。新型コロナウイルスの流行中は国際学会に参加することが難しかっ

たのですが、今年に入って国際学会にも行けるようになり、それが学生の中でも良い刺激になっています。



WPT学会 2023：菅原憲一先生（中央）と大学院生・卒業生

国際学会をきっかけに世界へ — 繋がる、感じる —

大工谷：今までに国際学会がきっかけで海外との交流などがはじまったことはありますか。

横山：あります。2011年にオランダのアム

ステルダムで開催されたWCPT学会で小児のネットワークミーティングに参加をしたのがきっかけで、WPTのスペシャルティグルー

プの一つ、International Organization of Physiotherapists in Paediatrics（国際小児理学療法士機構；IOPTP）の会長から



Facebookに友達リクエストが来ました。私が日本小児理学療法学会の役員を務めていたこともあって話が進み、IOPTPへの正式加盟にも繋がりました。その後に、研究委員会などにも参加をするようになり、いろいろな仕事が舞い込んできました。

菅原：私の場合は、同じ分野の研究者の方と名刺交換をし、日本に帰国してからやりとりをする方はいます。その時々で新鮮さを感じられ、また議論をすることができ、国際学会に参加する意義を感じます。

大工谷：国際学会に参加すると、後にちょっとしたお願いや連絡が来たりすることがありますね。その点は、国際学会の良い点だと感じます。先程お話にあったように、今は昔よりもSNSでのやりとりや情報発信がしやすい環境があるので、ネットワークが広がりやすい気がしますね。横山先生は、WPTのプログラム委員などをされておられるので、さらに繋がりが増えているのではないですか。

WPT2023ドバイからWPT2025東京へ

大工谷：2025年に東京でWPT学会が開催されるにあたり楽しみなことはありますか。

菅原：まずは、地の利があるので、少し気楽に行けますね。国際学会に参加することで、文化の違いは絶対的に感じられると思います。同じ理学療法士でも、それぞれの国の文化が違う中で理学療法にどんな違いがあるかは、学校の教育では教えてくれませんが、理学療法に対する概念の幅が大きく広がります。読者の皆さんには、せっかくの機会を活かしていただきたいです。そのうえで、自分が行っている理学療法を振り返っ

横山：はい。FacebookやWhatsApp、LinkedInなどで繋がりが増えており、SNSでの繋がりがやすさを感じます。

大工谷：昔よりも一歩踏み出した時のスピードが速く、範囲も広がっていると思います。菅原先生がおっしゃっていたように、今の若い人は英語を話せる方が多く、頼もしく感じますね。国際学会に「行く」「見る」だけでも、交流は広げられるので、国際学会が一つのきっかけになると良いですね。一方、なかなか国際学会に踏み出せないという話も聞きます。

菅原：先立つものを考えると、わかる気がします。病院勤務の学生もドバイの学会と一緒に参加しましたが、費用面で苦労したようです。金銭面でのサポートがあるといいですね。

横山：2025年は東京で開催されるので、渡航費の負担は少ないと思います。国際学会の「楽しい」雰囲気と一緒に味わいたいです。南アフリカで開催されたWCPT学会の開会式では、理学療法士同士が貸し出し

された筒や太鼓を叩くという同じ作業をして、同じものを見て、同じ場にいるという一体感を感じることができ、すごく良かったです。実際に経験をしてもらい、海外も面白いかもと思ってもらえたら嬉しいです。

大工谷：そうですね。海外の学会の開会式は、国にもよりますが、やはり楽しいですね。最近、円安の影響もあり渡航費だけでも高く、さらに参加費、宿泊費を考えると参加を躊躇するのはわかります。その点では、2年後に日本で開催されるWPT学会も、多くの方に参加していただけるような工夫が必要だと思っています。今は、WPTへ参加費の交渉や参加しやすいパターンの要望などを出しています。国際学会に参加する機会があれば、いろいろなチャンスに繋がるのではないかと思いますので、ぜひ参加を検討してほしいと思います。

化や社会的な背景の違いによる理学療法の提供の仕方やシステムなどを知ることができるのは楽しいですね。専門分野である小児の国際学会では、問題意識なども持てるようになりました。そういう点では、若い方にもぜひ知ってもらいたいですし、次に繋げていってもらえると嬉しいです。

大工谷：2023年に開催されたドバイの参加者を対象としたアンケートでは、ネットワーキングイベントのような交流が特に満足度が高かったようです。

横山：ドバイでは、タイムキーパーとしてさまざ

まなセッションを聞きましたが、いろいろな国の方が自分の国のことについてアピールをしたり、世界保健機関（WHO）の方が来られて理学療法士の位置づけの話をしたりするなど、有益な情報が気軽に聞ける場でした。いろいろな国の方が参加していたため、みんなで言葉をフォローし合い、理解できるように助け合っていました。何か伝えたいものがあれば、言語の壁があっても、参加できるのではないかと思います。

大工谷：2025年に日本で開催される際も同じような企画はありますか。

横山：はい。予定されています。

大工谷：発表や講演だけではなく、交流の機会もあるんですね。ぜひ、経験していただきたいですね。

横山：ドバイでは、海外の方とコラボをして発表していた日本人の方もいました。そのうちの一人は、日本の病院に勤務をしている方で、今回の経験を活かして、海外の方とネットワークを広げていました。行動次第でネットワークを広げることができるのだと感じましたし、国際学会はそれが一つの魅力だと思いました。

大工谷：学会とはいえ、交流の場が多いの

最後に、読者の方に向けてメッセージをお願いします

横山：言語の壁が大きいかもしれませんが、一歩踏み出すというところと変わります。国際学会をきっかけに自信にも繋がりますので、ぜひ国際学会に参加いただけると嬉しく思います。

菅原：日本人特有の恥ずかしさなどもあると思いますが、何か一つのきっかけで世界の

で、そのような参加の仕方もありますね。一方で、発表したい方や発表しないと学会に参加できないという方もいらっしゃると思います。国際学会で発表するための審査なども厳しいとは思いますが、演題審査を通るコストなどがありますでしょうか。

菅原：国内で臨床に従事されている方の発表をみていると、一つ一つの臨床研究のクオリティは非常に高いと感じます。日本でも演題を審査する立場を経験していますが、内容自体はそのままでも国際学会の審査は十分に通るのではないのかと思います。ただ、国際学会となると、さまざまな障壁により発表に至らないという方はいると思います。国際的な観点からみると、倫理や統計は客観的なところなので重要になりますが、日本の基準を満たしていれば、そこは大きな問題にはならないと思います。英語が苦手な方も、抄録などを英語で作成する際に、卒業校の先生や何かしらのサポートを受けながら作りこんでいけば、演題審査はパスするのではないかと思います。ぜひ、チャレンジしてほしいと思います。

大工谷：臨床研究や症例報告なども採択していただければ、日本からさらに良い発表が

方と話す機会が広がると思います。

大工谷：日本語でも発表するのは緊張するものです。自分の伝えたいことを聞いている人に伝えるのはとても難しいと思います。英語だからという理由で参加を諦めないでほしいです。何かアクションしようと思っている人も思っていなかった人も、2025年のWPT学

出てきそうな気がしますね。

菅原：ドバイの学会と一緒にいった学生の一人が、臨床分野の発表をしたのですが、その発表のところに最も人がたくさん集まっていたように思います。世界各国の方々に日本の臨床レベルの高さや面白さは十分に知られているように思います。

横山：日本の場合は、職場の上司や学校の先生、指導教員の協力のもと抄録を作ることが多いですね。学会プログラム委員会の仕事として、英語で抄録の作り方から丁寧に教えるメンタリングプログラムというものがあります。日本語で対応し、英語で構成できるプログラムがあったら良いのではないかと思います。提案を試みようと思っています。そうするとハードルが少し下がるのではないしょうか。

大工谷：ぜひお願いしたいですね。



WPT学会 2023：WPT CEOのJonathon Kruger氏（左）と横山美佐子先生（右）

会は東京開催ですので、ぜひ一歩を踏み出すきっかけにしてほしいです。本日は貴重なお話をいただき、ありがとうございました。

国際学会 体験記

ドバイで開催された世界理学療法連盟学会 2023 で活躍された 3 名の会員の方に学術活動の取り組みや国際学会に参加・発表をしようと思っている方へのアドバイスなどをお伺いしました。

質問項目

- ✓ 世界理学療法連盟学会 2023 での発表内容
- ✓ 発表をしようと思ったきっかけ
- ✓ 国際学会で発表するための準備
- ✓ 国際学会に参加・発表しようと思っている方へのアドバイス



青森県立保健大学 / 准教授

渡邊 龍憲さん



私は、非侵襲的に脳を刺激する手法の一つである経頭蓋静磁場刺激について発表しました。この経頭蓋静磁場刺激は、刺激装置（ネオジム磁石）が安価であり、高度な操作技術を必要としないため、比較的扱いやすいリハビリテーションツールであるものの、理学療法領域においてはそれほど認知度が高くありません。そこで、「この刺激法を理学療法領域に広めたい」「この刺激法について海外の理学療法士と議論したい」と考え、新型コロナウイルス感染症の影響による渡航制限の緩和が進んだタイミングで参加登録を受け付けていた世界理学療法連盟学会 2023 に参加することにしました。参加にあたっては、留学経験があるため言語面の準備は特に行いませんでしたが、経頭蓋静磁場刺激をわかりやすく説明できるように生理学的なメカニズムなどの関連情報について整理しました。

国際学会に参加する際には、英語を流暢に話せるに越したことはありませんが、最近の翻訳・通訳アプリは精度が高いため、積極的に活用することをおすすめします。世界中から集まった多様なバックグラウンドを持つ参加者と出会い、意見を共有することが貴重な経験になり、国際的な知識と視野の拡大に繋がるものと考えます。

https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/asset/pdf/01_wpt_abstract_compressed.pdf



広島大学大学院医系科学研究科
スポーツリハビリテーション学研究室 / 博士課程

安部倉 健さん



私は、投球動作中の胸郭拡張運動を測定する新たな手法の信頼性と妥当性について発表しました。私にとって初となる海外での現地参加でした。

私達の研究室では、大学院生が英語論文を執筆することに加え、国際学会で発表することが強く推奨されています。そのため、世界理学療法連盟学会は特に重要な学会です。私自身、これまで行ってきた研究内容が国外の理学療法士からどのような反響が得られるか興味があったため、本発表を志願しました。

今回は ePoster と呼ばれる発表形式で、口頭発表 3 分、質疑応答 2 分の構成でした。発表にあたって、事前に英語で原稿を用意し、音読練習を反復しました。質疑応答の対策のために、予想される質問を研究室のメンバーとディスカッションし、本番に備えました。

当日の質疑応答では、質問が聞き取りやすく適正な回答ができたと思います。前もって質疑応答の準備を行うことの重要性を学んだ瞬間でした。

今回、連盟のスペシャルティグループである国際スポーツ理学療法連盟（IFSPT）から優秀演題に選ばれ、最終日のクロージングセッションで表彰台に立つ光栄に浴しました。2025 年の世界理学療法連盟学会では、英語をツールとして使いこなし、国外からの多くの参加者をホストの一人として迎えたいと考えています。

https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/asset/pdf/02_wpt_abstract_compressed.pdf



福山市民病院 リハビリテーション科

俵 紘志さん

（写真左）



今回私は、紛争地への遠隔リハビリテーションに関するポスター発表と、「遠隔リハビリテーションは人道支援の一助になるか?」、「ロボットフレンドリーな社会のために何ができるか?」をテーマとしたインダバセッション[※]、「DIGITAL PRACTICE」のディスカッションにも登壇する機会をいただきました。また、会場の隅で開催された写真展に、当院で開催したリハビリテーションロボット体験会の写真が採用されたこともあり、非常に思い出深い学会になりました。私自身、はじめての国際学会は世界理学療法連盟（WCPT；現在は WPT）学会 2019 でのポスター発表でしたが、今思えば、「こういう質問が来たら、こう答えよう…」といった受け身の姿勢でした。WPT 学会 2023 では、「自分の取り組みを発信し、世界中の理学療法士からフィードバックを得て、仲間を増やしたい!」という思いが芽生え、参加を決めました。事前準備では、自分の思いを伝えるため、翻訳機だけでなくネイティブの友人の助けも借りて、発音や間の取り方、強弱の付け方などのアドバイスをもらい、練習を重ねました。

どれだけ練習をしても言語の壁は立ちばかりですが、自分が何者で、何をしている理学療法士なのか? をしっかり言葉にすることはとても大切だと感じました。思いを持って話せば、相手は真剣に聞いてくれますし、必要な人へ繋いでもくれ、かけがえない経験ができると思います。

[※]インダバ（Indaba）セッション：アフリカの原住民の言葉をもとに作られたセッション。カジュアルにグループで課題や興味があるテーマで話すことができる場。

https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/asset/pdf/03_wpt_abstract_compressed.pdf



受賞にあたって

長年、予防老年学の第一線で研究を続け、日本理学療法学会連合が発行する学術誌・英文誌の編集委員長なども務めている会員の島田裕之さんから受賞コメントをいただきました。



国立長寿医療研究センター研究所
老年学・社会科学研究センター／センター長

島田 裕之さん



世界理学療法連盟学会 2023 において Impact of osteosarcopenia on disability and mortality among Japanese older adults と題したポスター発表を行い、幸いにも受賞いたしました。多くの研究者と交流が持てたことは、今後の研究の糧となりました。この研究は 8,995 名の高齢者の筋量と骨質を測定して 5 年間の要介護と死亡を追跡調査したところ、オステオサルコペニア（筋と骨の脆弱性が合併した状態）において高いリスクが認められたという内容です。長期にわたる研究が認められたので、喜びは大きかったです。

私は「理学療法学」と「Physical Therapy Research」の編集委員長を務めていますが、投稿される論文の質は高く日本の理学療法士の研究に対する真摯な姿勢は世界に誇れると感じています。ぜひとも臨床や研究フィールドで発見した新たな知見を英語論文として公表してほしいと思います（できれば「Physical Therapy Research」で）。研究を通じた能動的な自己学習が、論理的思考力と臨床能力を高めるための一番の鍵と私は信じています。研究発表にとどまらず論文化することで、その過程において能力の向上が期待できると思いますので、「自分のため」「目の前の患者・対象者のため」に研究してください。

https://www.japanpt.or.jp/privilege/topics/asset/pdf/04_wpt_abstract_compressed.pdf



Top Message

会長 齊藤 秀之



World Physiotherapy Congress 2025 TOKYO の開催決定とその意味

本会は高齢社会における理学療法サービスのフロントランナーであることを自負し、世界理学療法連盟学会の誘致活動をはじめ、さまざまな活動を展開してきました。本年5月30日（火）～31日（水）には、ドバイで開催された世界理学療法連盟総会において、2025年5月29日（木）～31日（土）に東京で開催されるWorld Physiotherapy Congress 2025 の参加について呼びかけました。

東京開催が決定される前の誘致活動期間において、新型コロナウイルスが全世界にまん延しました。そのことでこの活動に関する交渉は難しいものとなりましたが、役職員が一丸となって交渉した結果、当初交渉していた開催年を変更しての日本開催という大きな成果を勝ちとることができました。また、その役職員の強い動機づけとなったのは、交渉期間中に開催された東京オリンピック・パラリンピック2020です。わが国の新型コロナウイルスへの対応や選手村診療所（ポリクリ）における会員各位の臨床技能が世界標準であるという評価、参加された会員各位のホスピタリティへの賛辞が今回の決定にも影響を及ぼしたと言っても過言ではありません。

さて、ここでこの国際学会を誘致した意味について少しお示しします。

1. 日本における理学療法ならびに理学療法関連産業の海外展開推進

わが国は2025年を目途に地域包括ケアシステムの構築を目指してきました。こうした仕組み作りに対する世界からの注目は言うまでもありません。日本の理学療法や理学療法機器、日常生活・福祉用具、医療DX、研修制度・教材などの関連・周辺産業の海外展開に繋げることは、この誘致活動の最大の意義です。

2. JPTA60周年事業の一つとしての誘致と第60回日本理学療法学会と第60回日本理学療法学会との連続開催

本会は2026年に創立60周年を迎えます。60周年記念事業の一つとして、この国際学会を捉えています。そして、開催国で同時期にイベント実施をすることを認めていなかった世界理学療法連盟に、第60回日本理学療法学会と連続開催することを認めていただいたことは、世界理学療法連盟の歴史上はじめてのことです。多くの会員が世界の理学療法士とともに60周年を祝えるという機会を得たことは重要な意義を持つと考えます。

多くの会員に、誘致した国際学会と連続開催される学術研修大会に参加していただき、国際的感性を感じ、触れ、国際的視点を醸成していただきたいと思います。さらには、グローバルスタンダードを再学習する機会にさせていただくことをお願いして結びとします。

理学療法士をとりまく



Vol. 23

ディーセント・ワークの実現へ～労働意識と理学療法士～

「持続可能な開発目標（SDGs）」という言葉は、会員の皆さまも耳にしたことがあると思います。今回は、その8番目の項目である「働きがいも 経済成長も」の中にも位置づけられている「ディーセント・ワーク」の観点から、理学療法士の労働意識について取り上げます。ディーセント・ワークは、1999年の国際労働機関総会で提出された報告ではじめて用いられ、「働きがいのある人間らしい仕事」を意味しています。この言葉の意味には、法定の労働時間や休日だけではなく、仕事のやりがいや、仕事とプライベートのバランス、自己鍛錬（自己啓発支援等）ができる環境などが含まれています。では、会員の皆さまはディーセント・ワークを実現できているのでしょうか。2022年度に本会に所属する理学療法士を対象として実施した本会の調査では、理学療法士はやりがいのある仕事であると思う層が88.9%（「そう思う」「ややそう思う」）でした。この結果は、2019年に厚生労働省が全国を対象として実施した調査における「仕事への内容・やりがい」の割合（58.8%※1）と比較をすると、高い割合となっています。また、理学療法士の身近な研鑽機会は、高い割合（85.2%）で月に1回以上開催されていることが明らかになりました。一方で、

14.8%が身近な研鑽機がないことが示されました。加えて、将来に対する不安を抱えている理学療法士が多い（不安がある：91.9%）ことも明らかになりました。特に「今後の収入や資産の見通し（81.2%）」への不安が高く、次いで「自分の健康（71.7%）」という結果になりました。本会は、これからもより多くの会員の皆さまが「理学療法士はやりがいのある仕事」だと感じられるよう、生涯学習の提供、報酬改定・処遇改善要望などの職能活動を通して、皆さまの将来への不安が解消されるような環境作りに努めていきます。ぜひ本会や士会の事業を活用してください。

※1 正社員の数値を引用

▼参考文献

厚生労働省「令和元年就業形態の多様化に関する総合実態調査の概況」
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/roudou/koyou/keitai/19/dl/gaikyo.pdf>
（閲覧日：2023年10月31日）



国際労働機関（日本語ページ）

国際労働機関「ILOについて」> ディーセント・ワーク
<https://www.ilo.org/tokyo/about-ilo/decent-work/lang-ja/index.htm>



仕事を守る、生活を守る 理学療法士と 政治活動

国政や地方議会で活躍する理学療法士や、連盟を含めいろいろな形で政治活動を行っている理学療法士に登場いただき、業界をとりまくさまざまな課題やその解決に向けた取り組みを紹介いたします。

10月20日（金）から第212回（臨時）国会がはじまり、引き続き予算委員会・法務委員会委員として任にあたることとなりました。今、国会では法律案12本および条約1件、さらには国民生活の向上に重要な総合経済対策および補正予算案が審議されています。リハ

ビリテーション専門職や介護従事者などをはじめとする国民所得の向上、物価高騰対策、中小企業の経営安定化など積極的な財政政策が展開されるよう提案していきたいと思っています。国会休会中の4ヶ月間、全国でご挨拶や講演の機会を数多くいただき、国政でリハビリテーション専門職の関わる事項がどのように議論されているのかなどを報告させていただきました。臨床業務や報酬制度の課題など解決すべき事項は数多くあります。国政、とりわけ政府および政権政党における協議の俎上にのせ、政策に反映させるためには、どれだけ多くの国民が望んでいるのかを示すこと、民意の数は民主主義における政策決定の最重要要素です。つまり、政策協議の場で課題

解決に賛同する声（議員）を増やすことが必要です。それでは、皆さんの民意はどのように示せばよいのでしょうか。わが国は議会制民主主義であり、国会議員や地方議員に代弁してもらうこととなります。まず、地元選出の議員を困らぬ勉強会を開催して課題および解決方法を共有しましょう。その場にどれだけ多くの会員が同席するかが重要な鍵となります。

（執筆日：2023年11月）

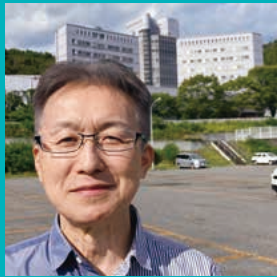


第42回関東甲信越ブロック理学療法士学会での挨拶

田中 昌史

1965年北海道札幌市生まれ。1987年理学療法士免許取得。
2023年1月、参議院議員として繰り上げ当選。
田中まさし公式サイト（<https://tanaka-masashi.com/>）





高橋 俊明(たかはし としあき)

岩手県立宮古病院
リハビリテーション技術科

Toshiaki Takahashi
1961年岩手県宮古市生まれ。
1983年3月岩手リハビリテ-
ション学院卒業。同年4月医療
法人社団弘慈会加藤病院(現 宮
古第一病院)に就職。1989年
4月岩手県医療局に採用となり県
立紫波病院(現 紫波地域診療セ-
ンター)、1995年4月県立千厩
病院、2005年4月県立宮古病
院、2014年4月県立中央病院、
2018年4月県立宮古病院に勤務
し、2022年3月定年退職。同年
4月再任用となり現在に至る。

本コーナー「生涯現役」では、生涯現役で活躍す
る先達から会員の皆さまへメッセージを募集して
おります。
お問い合わせ先: JPTA NEWS 担当 news@japanpt.or.jp

生涯 現役

働き続けることは、 応化し続けること

私が定年前の職場でフルタイム再任用を選択し、2年目となりま
す。選択理由は、労働環境が整っていたことと、勤務実績が良好な
場合は令和8年度末まで任期の更新をできることが決め手でした。
当初は平日のみの勤務でしたが、自ら申し出て休日勤務にも組み込
んでもらっています。仕事の内容は、ごく一般的なもので主に急性
期の運動器、脳血管疾患等の患者さんの理学療法です。チーム制を
敷いているため、毎日の情報収集や翌日に繋げるためのわかりやす
い実施記録には、患者担当制と異なり神経を使うところ です。

ただ、患者さんを軸に動いているため新人、ベテランを問わずコ
ミュニケーションが取りやすく、お互いに学ぶことも多くあります。
いくら40年のキャリアがあっても一個人としての知識や技術には限
界がありますし、日進月歩の医療技術と同様にリハビリテーション
分野も介入の視点や手技の多様化には目を見張るものがあります。

理学療法士として働き続けるということは、現状に満足することな
く生涯において応化し続けることなのだ と強く感じる次第です。

思い起こせば県立病院勤務のうち8年は一人職場でした。勤務と
並行して近隣市町村の機能訓練事業(いわゆるリハビリテーション
教室)にも20年弱関わらせていただきました。そのような状況下で
周辺領域の知識の必要性を感じ、介護支援専門員や福祉住環境コー
ディネーターの資格、日本身障運動者支援機構の運転支援者認定も
取得しました。また、上司の命を受けて、いわて糖尿病療養指導士
(日本糖尿病療養指導士のローカル版で数居は低い) も取得し、糖
尿病教室等で活用させていただきました。これらの知識はアップ
デートしなければならない部分はありますが、自分の財産となり、
折々で患者さんやご家族あるいは関係スタッフへの助言等で今でも
役立っていることは間違いありません。

INFORMATION

年度末の異動・休会・復会・退会等は 1月1日～2月20日にお手続きください。

会員数 **140,578名** 2023年11月30日現在
※休会者含む

ご登録内容に変更が生じた場合は、日本理学療法士協会(以下、本会) ホームページ内の【マイページ】へログインし、
Web 申請にて各種手続きをお願いいたします。トラブル防止のため、電話・メール・FAX による各種申請は受け付けておりません。

〈参考 URL〉 <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/member/>
※ Web 環境がない場合は、本会事務局 (TEL : 03-6804-1421) へお問い合わせください。



異 動

2024年1月以降、勤務先または自宅住所の変更が確定している方
(すでに変更となっているが手続きしていない方も含む)

➡ 1月1日～2月20日 に 異動申請 をお手続きください。
年会費は異動先の都道府県士会への納入となります。

※2月20日までに手続きできなかった方は…
確定次第、マイページからお手続きください。年会費は【異動前】の都道府県士会への納入となります。
新しい登録情報が反映されるのは4月3日以降となり、2月下旬～3月中に転居される方は、発送物が不着するおそれがあります。転送手続きはご自身でご確認ください。
(注)・施設移転等による施設情報の変更は、施設会員代表者、または施設会員代表者代理に割り当てられた方のみご変更が可能です。
施設会員代表者様は【マイページ】へログインしていただき、【登録内容の変更・確認】➡【施設情報管理】よりお手続きください。
・休会・退会を希望される方は、「休会申請」「退会申請」で自宅住所の変更が可能です。休会申請・退会申請からお手続きください。

休 会 ・ 退 会

2024年4月から休会、3月末で退会を希望する方

➡ 1月1日～2月20日 に 休会申請または退会申請 をお手続きください。
年会費は請求いたしません。

※新規休会・退会を希望で2月20日までに手続きできなかった方は…
2月21日～3月31日に休会申請または退会申請をお手続きください。入れ違いで年会費を請求する可能性がございますが、お支払いは不要です。引落決済が確定した場合は、後日返金させていただきます。
年会費納入確定後、4月2日以降に休会・退会を申請された場合は返金いたしかねます。

現在休会中で、休会継続を希望する方

➡ 1月1日～3月31日 に 休会申請 をお手続きください。
3月31日までに申請がない場合は、退会手続きをさせていただきます。

※休会継続を希望で3月31日までに手続きできなかった方は…
退会手続きをさせていただきます。自ら退会手続きを行わず退会となった場合は、再入会時に入会金が免除されませんのでご注意ください。

休会中ならびに退会後は下記の権利が停止となります。

- 各種研修会・学会等への会員価格での参加
(非会員価格での参加となり、会員対象の研修会への参加はできません)
- 各種学会への無料での演題登録
- 理化学療法士賠償責任保険への加入 (全員加入・任意加入)
- 会報誌「JPTA NEWS」の発送
- 役員候補者選挙・会長候補者選挙の選挙権、被選挙権
- 福利厚生サービス「クラブオフ」の利用 など

(注)・退会後、生涯学習履修履歴は無効となり、取得した資格も失効します。再入会時には再履修・再取得が必要です。
・退会される場合は、会員証カードを速やかに破棄してください。

復 会

2024年4月から復会を希望する方

➡ 1月1日～2月20日 に 復会申請 をお手続きください。
年会費を3月中に承認された方は、4月1日より「在会」となります。

※2月20日までに手続きできなかった方は…
2月21日～3月31日にマイページからお手続きください。年会費納入後「在会」となります。
※3月31日までに申請がない場合は、退会手続きをさせていただきます。自ら退会手続きを行わず退会となった場合は、再入会時に入会金が免除されませんのでご注意ください。

会 費 割 引 (育児休業・シニア・海外)

各種申請条件を満たし、2月20日までに申請された方

➡ 2024年度年会費が割引適用となります。

※2月20日までに手続きできなかった方は…
2月21日以降は、2024年度年会費を納入後、マイページからお手続きください。2025年度年会費が割引適用となります。

マイページのログインID・PWの再発行

マイページへログインできない場合は、マイページログイン画面下の「ログインできない方はこちら」より、ID・PWの再発行申請をお願いします。

〈参考 URL〉 <https://www.japanpt.or.jp/inquiry/faq/mypage/system20002.html>

(注) お電話によるID・PWのご照会はありません。



マイページ専用アプリ導入のお知らせ

会員マイページ専用アプリを導入いたしました。
会員専用アプリでは、マイページへのオートログ
インやQRコード読取機能による研修会参加受付
が可能になるほか、協会・士会からのお知らせが
プッシュ通知で受信できます。
ぜひ、アプリをダウンロードのうえ、ご活用ください。

※会員マイページ専用アプリに関する詳細は下記よりご確認
いただけます。

参考 URL <https://www.japanpt.or.jp/pt/announcement/newsystem/>



クラブオフについて

＼ ちょっとした一息に【対象店舗限定】コメダ珈琲店 /



通常サイズの価格でたっぷりサイズへの
サイズアップ無料

※事前に対象店舗をご確認ください。対象店舗以外ではご利用いただけません。
ご利用の際には、「日本理学療法士協会 クラブオフ」へ

◎その他サービスの詳細はWebで検索

理学療法士協会 クラブオフ 検索



コツコツ学ぼう！

登録理学療法士 更新ポイント 問題解答

登録理学療法士の更新ポイントの取得要件の一つに、JPTA NEWS の
問題解答があります。全問正解で、1ポイント取得できます！
登録理学療法士の方は、更新資料をご確認のうえ、右記のQRを会員専
用アプリで読み込んで、ぜひチャレンジしてみてください！



カリキュラムコード

102 運動耐容能

解答期限は2月19日まで

マイページのセミナー検索画面からも申込可能 (セミナー番号: 117427)、申込期限は「2月18日」です。

※解答完了後、翌日中に履修履歴へ反映されます。

登録理学療法士制度の概要はこちら ▶ <https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/new/registered/>
コツコツ学ぼう！登録理学療法士更新ポイントに関するお問い合わせは、**本会ホームページ FAQ** からお願いいたします。

HOT TOPICS

2023年度選挙実施予定のご案内

2023年度の代議員選挙が以下の日程で実施される予定です。

	選挙日程(予定)
告示日	2024年1月10日(水)
立候補期間	2024年1月22日(月)～1月29日(月)
投票期間	2024年2月19日(月)～3月3日(日)
開票日	2024年3月3日(日)

▶立候補・投票方法

選挙期間中、マイページ内のリンクより立候補・投票が可能となります。詳細は、会員専用コンテンツ内各選挙ページに掲載される告示・実施要項をご確認ください。

マイページ

選挙サイト

立候補・投票

「2023 職場における腰痛予防宣言！」 10月よりスタート

このたび本会では、「2023 職場における腰痛予防宣言！」と題する腰痛予防の取り組みを支援するキャンペーンを開始しました。ぜひ所属施設内における腰痛予防講習会の開催や職場のリスク見積と改善提案の取り組みにご参加ください。内容や参加方法は、以下のホームページや解説動画で紹介しています。

※腰痛予防啓発ポスターは、施設代表者の皆さま宛て JPTA NEWS10 月号に同封いたしました。またホームページより PDF データの印刷が可能です。ご所属施設内への貼付にご協力をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.japanpt.or.jp/pt/function/healthpromotion/#a5>



【解説動画】

<https://youtu.be/WVPZ1YW0E2A>



Sport in Life コンソーシアムに 加盟承認

本会が、スポーツ庁が実施している Sport in Life コンソーシアムに加盟承認されました。Sport in Life とは、2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーとして、一人でも多くの方にスポーツを楽しんでいただき、スポーツを行うことが生活習慣の一部となるような社会を目指すという取り組みです。本会は、理学療法を通じ、医療・介護、健康増進、産業等の分野において国民のスポーツ実施率向上に向けて取り組むことを宣言しました。



https://www.japanpt.or.jp/info/20231006_433.html



日本理学療法士協会雑誌・ 投稿論文募集のご案内

2023年2月に創刊した「日本理学療法士協会雑誌」では、2024年2月号(第5号)より会員の皆さまからの投稿論文を掲載する予定です。

若手からベテランまで、会員の皆さまの臨床に役立つ豊富な情報を掲載している本雑誌への投稿論文を通じて、ご自身の知見を広めてみませんか。詳しくはホームページ掲載の「投稿規定」をご確認ください。

本雑誌の投稿論文の筆頭著者は認定・専門理学療法士更新点数40点に該当します。

<https://www.japanpt.or.jp/pt/lifelonglearning/uptodate/>



マイページ(会員限定コンテンツ)
へのアクセスはこちらから。



公益社団法人

日本理学療法士協会

Japanese Physical Therapy Association

公益社団法人 日本理学療法士協会会報誌 号数: No.346
発行日: 2023年12月20日

発行人: 公益社団法人 日本理学療法士協会
〒106-0032 東京都港区六本木七丁目11番10号
TEL: 03-5843-1747 FAX: 03-5843-1748

HPへアクセス

代表: 斉藤秀之
編集: 日本理学療法士協会 事務局
本会 HP: <https://www.japanpt.or.jp>

